

令和6年度学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センターの機能の充実 6 仕事の効率化</p>		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	<p>・病気や障害の状態に合わせ、「個別最適な学び」を行えるよう、学習内容・学習環境を整え、児童の発達段階に合わせた積極性、自主性、社会性の伸長を目指します。</p>	<p>・児童の多様な実態に応じた指導の実践、検証、改善を、保護者、医療、関係機関と連携して進めます。</p> <p>・学習のねらいに応じ、学年や学ぶ場の異なる友達と共に学ぶ場を設け、人と関わる楽しさを体験できるようにします。</p>	<p>・保護者との懇談、主治医や病棟関係者とのカンファレンス、スクールカウンセラーによる各種検査等で児童の状態を適切に把握し、授業改善や日々の生活指導に生かすことができました。</p> <p>・文化祭では、通常学級と重複障害学級それぞれの実態に合わせた発表内容を考えて小学部全体でまとめ、一つの劇を作り上げました。休み時間には、通常学級の児童が重複障害学級の児童へ絵本を読み聞かせる姿や、学年の異なる児童同士が遊んだり、困ったときに声を掛け合ったりする姿など、教師が設定した場面以外でも主体的に関わることを楽しむ様子が多く見られるようになりました。</p>
中学部	<p>・集団の一員としての自己理解を深め、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。</p>	<p>・生徒一人一人の自立活動の目標や活動内容の共通理解を図り、学校生活全般で意識しながら支援します。</p> <p>・ICT機器を活用し、校内教育、ベッドサイド学級、施設内教育学級で同時双方向型通信による授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。</p> <p>・集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験ができるよう支援します。</p>	<p>・生徒一人一人の自立活動の目標や支援方法を中学部全職員で共通理解し、学校生活全般で意識しながら支援しました。自立活動の目標を、学校生活全般を見据えてより具体的に設定していきたいと思います。</p> <p>・オンラインと対面授業を同時に実施するハイブリット型授業を展開する上で、より効果的に授業を行う方法を考え、評価についても共通理解を図りました。</p> <p>・一人一人の生徒に寄り添って気持ちや悩みなどを受け止めることで、生徒の主体的な学習に向かう態度や円滑な人間関係の構築につなげることができました。</p>
高等部	<p>・在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動を実践します。</p> <p>・生き生きと自信をもって学校生活や社会生活を送ることができるための教育活動を実践します。</p>	<p>・社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部教職員で共有した上で、課題解決に向けた取組を学校生活の中で繰り返し行います。</p> <p>・経験を積み重ねながら力をつけていくことを重視し、失敗や成功を繰り返すなかでできる「自己の課題に向かう意識」を喚起します。</p>	<p>・個々の課題解決に向けて、学級を中心に主任等と相談しながら進めることが概ねできました。情報共有や協力体制の取り方を工夫しながら、社会自立を目指し、改善を続けていきます。</p> <p>・学校生活や行事、実習を通して自分の課題と向き合い、課題解決に取り組んだり、新たなことにチャレンジし自信をつけたりするなど、成長する姿が見られました。今後もさまざまな経験を積み重ねられる機会をつくり、成長できるよう支援していきます。</p>
施設内教育	名大藤田中京	<p>・児童生徒一人一人の治療状況に合わせた取組ができるように努めます。</p>	<p>・教室登校とベッドサイド授業の切り替えに柔軟に対応できる環境を整えていきます。またインターバル治療やターミナルケアで頻繁に自宅に戻る児童生徒には、総合的に考えて最良の学習方法を考えていきます。</p> <p>・教室登校⇄ベッドサイド授業の切り替えをスムーズにできるように病棟との連携を図りました。手続き書類の簡素化に取り組みましたが、病棟によって対応に違いがあるので、丁寧な説明を心がけたいと思います。</p> <p>・頻繁に自宅に戻る児童生徒について、学籍異動、副次的な学籍、交流学习、リモート授業を検討し、児童生徒・保護者のニーズに対応しました。インターバル治療とターミナルケアとの違いを整理して取り組んでいきたいです。</p>
訪問教育	<p>・児童生徒の一人一人の実態に応じた授業作りをします。</p> <p>・病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。</p>	<p>・担当者間で授業について、PDCAサイクルで検討をすることを繰り返し行い、より良い授業作りに努めます。</p> <p>・電話やメール、カンファレンス等を活用し、関係機関等と情報共有できるように多くの機会を確保します。</p>	<p>・担当者間で児童生徒についての情報交換を密に行い、実態に応じた授業が展開できるよう努めてきました。今後も児童生徒に合った授業作りに努め、学習に対する動機付けを高められるような支援の検討を続けていきます。</p> <p>・個別のカンファレンスや病棟との情報交換会などを、年間を通してのべ60回以上実施し、関係機関との情報共有や課題解決に努めてきました。今後もメールや同時双方向通信等、多様な方法も活用して積極的にコミュニケーションを図り、関係機関とのより良い関係の構築に努めます。</p>

<p>総務部</p>	<p>・魅力ある教育活動の情報発信に努めます。</p> <p>・保護者にとってより有意義になるようにPTA活動を進めます</p>	<p>・学校だよりや校内掲示、メール配信システムを利用して、活動の様子を具体的に発信していきます。</p> <p>・保護者のニーズと要望を踏まえながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動やPTA研修会を実施します。</p>	<p>・文化祭の舞台発表や校外学習、遠足など、各部の行事の様子を、校内掲示や学校だよりで写真のレイアウトを工夫したり、コメントを載せたりして、児童生徒の様子が生き生きと伝わるよう発信することができました。</p> <p>・第2回のPTA研修会では卒業生と障害者福祉施設長の方を講師に招いて、卒業後の生活についてや、施設の様子と卒業後に必要な力について講演をいただきました。卒業後の充実した学生生活の様子と障害者福祉施設の現状などがよく分かりました。来年度も、アンケートで得た保護者の希望を踏まえ、研修会を企画したいと思います。</p>
<p>教務部</p>	<p>・児童生徒が、日々の授業を軸に豊かな学校生活を送ることができるよう、学習環境を整えます。</p>	<p>・授業研究の充実を図り、学習意欲の向上や基礎学力の定着につなげていきます。</p> <p>・個々の実態や指導形態に応じた教育活動を工夫し、展開します。</p>	<p>・よりよい教科指導について教科会や各部で情報共有を行いました。教育課程についても検討を重ね、児童生徒にとって効果的な学習が実施できるよう見直しや調整を行いました。</p> <p>・形態別研修を年4回実施しました。児童生徒の病気や障害などの知識を深め、児童生徒に合ったよりよい指導方法を検討することができました。また、児童生徒が安心して授業に取り組める環境(教室、教材等)の整備も進めました。</p>
<p>自立活動</p>	<p>・各児童生徒の実情や実態に応じた指導・支援を目指し、学校生活を始め、日常生活に生かすことができるように努めます。</p>	<p>・児童生徒の「プロフィール表」を作成し、教員間で共有しながら支援を進められるようにします。また、保護者や関係機関との連携を図ります。</p> <p>・児童生徒の心身の状態に配慮し、それぞれの強みを生かせる場面設定を行います。</p>	<p>・教員間で作成した計画を基に保護者とも連携を取り、家庭での様子を伺いながら指導・支援を進めることができました。目標として決めたことを、進んで生活場面で行う様子も見られました。今後も、教員間や各機関での連携を大切に、継続した指導・支援を行えるようにしていきます。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・児童生徒が安心・安全に関する様々な課題に関心をもち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校作りに努めます。</p>	<p>・避難訓練、保護者引き渡し訓練、シェイクアウト訓練の他、保護者との伝言ダイヤル活用訓練等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。</p> <p>・情報モラル教室や交通安全教室等を通して、児童生徒の危機管理意識を高めていきます。</p> <p>・各部会での児童生徒のいじめ等に関する情報共有及び部間、関連分掌との連携を図ります。児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。</p>	<p>・避難訓練を2回、シェイクアウト訓練を3回、伝言ダイヤル活用訓練、保護者への引き渡し訓練と併せて児童生徒に向けた防災学習を実施しました。自ら身を守るために迅速に対処する習慣や、避難所での過ごし方を体験的に活動し、防災に対する意識を高められました。</p> <p>・情報モラル教室では、小学部はICT支援員を招き、保護者や教師のアンケートを基に授業を行っていただきました。中・高等部は、少年サポートセンター職員を講師に、時事的な内容を体験的に学ぶ活動を行いました。</p> <p>・「心のアンケート」の結果を踏まえて、各部会で児童生徒の情報交換を行いました。今後もいじめや心の問題の早期発見に努めていきます。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>・教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。</p>	<p>・児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底・共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。</p> <p>・医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深めるなかで、児童生徒や教職員が、安心して学校生活を送ることができるように支援します。</p> <p>・日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。</p>	<p>・ヒヤリハットについて、報告用紙の改善など、報告することへの抵抗感を減らす取組を進め、全学部からヒヤリハット案件を集めることができました。また、緊急搬送があった翌日に児童生徒の様子などを職員に報告し、情報の共有や部を超えた職員間の連携を深めることができました。</p> <p>・食物アレルギーに関する要項の見直しを行い、関係職員や大府もちのき特別支援学校との連携を再確認することができました。今後も研修等を通じて、食物アレルギーに対する確かな知識や安全管理の向上に尽力します。</p> <p>・熱中症やインフルエンザ、食中毒等に対する注意喚起を児童生徒や職員にこまめに行ってきました。熱中症対策ではWBGT計を積極的に活用して環境の把握をする取組、感染予防では「手の洗い方」の掲示物の工夫や、県内感染者数の状況報告、感染対策を職員打合せで啓発する取組を行いました。こうした取組により、安全に学習に取り組める環境を整えることができました。</p>

<p>進路指導部</p>	<p>・児童生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け、進路指導の充実に努めます。</p>	<p>・学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握し、必要な情報を的確に提供するとともに進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。</p> <p>・個々の志望を把握し、見学、体験、実習等の機会を多く設定したり奨励したりすることにより、多様な進学・就労への個別支援に対応できるように努めます。</p> <p>・希望する進路先・居住地関係機関に対し、保護者の理解を得た上で、生徒の病状や実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくとともに、合理的配慮が得られるよう努めます。</p>	<p>・進学・就労までの過程を中心とした説明会を生徒・保護者向けに実施しました。進路決定に向け、個別懇談やカンファレンスを行うことでニーズを把握し、丁寧な支援を行いました。必要な場合には、地域との連携を行いました。今後は外部機関と共に懇談をするなどの連携も検討します。</p> <p>・連絡帳やアンケート等を通して生徒、保護者のニーズを把握しました。タブレット端末に見学や体験などの日程や特徴などをまとめて提示することで、多様化する進路選択への個別支援が行えました。</p> <p>・希望する進路先・居住地関係機関を必要に応じて訪問するなど、より密な関係を構築できるよう積極的に働きかけを行いました。</p>
<p>教育支援部</p>	<p>・児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実に努めます。各関係機関との情報の共有化、連携の充実に努め、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</p>	<p>・児童生徒の適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、必要な情報の提供を行います。</p> <p>・夏季公開研修として、医療と連携した研修会を企画し、地域の教育関係者に公開します。</p>	<p>・スクールカウンセラーによる児童のアセスメントや保護者面談を実施しました。アセスメントの結果を児童の支援に生かすことができました。</p> <p>・夏季公開研修では愛知県精神医療センターの医師に協力いただき、「精神障害を抱える児童生徒の治療・支援」に関する講演会を開催しました。本校教職員以外にも、知多地域の小中学校の教員22名が参加し、「専門的な話が聞けて良かった」等の声も多く、学びある研修会となりました。</p>
<p>教育情報部</p>	<p>・ICT環境を整備し、児童生徒の学び力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。</p>	<p>・教育系クラウドの環境を整え、校内教育や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保障ができるようにします。</p> <p>・校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。</p> <p>・他の分掌と連携しながら、新校務支援システムの運用を含め、業務の効率化を図ることができるよう、ICT環境整備を進めます。</p>	<p>・ネットワーク更改の情報を十分に吟味し、校内や施設内教育、訪問教育を担当する職員に周知しました。施設内教育と本校のファイルサーバがクラウドでつながるようになったことで、今後もさらに業務の効率化が進むと思われます。また、訪問教育では、新たに生徒用モバイルルータが多数配備されたことで、学びの保障が確保しやすくなりました。</p> <p>・児童生徒や職員が、学習や授業に快適に取り組めるよう、校内ネットワークの整備に努めました。</p> <p>・新規エースネットの更改に伴い、業務の効率化について他分掌に情報を提供できるよう、先に更改した他校の様子を確認し、情報を集めたことで、更改後も大きなトラブルなく運用することができました。</p>
<p>総合評価</p>	<p>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか。 個々の児童生徒の病状や障害の状態を、保護者や医療関係者の協力も得て丁寧に把握し、教室や教材など、必要な教育環境を整備することに努めました。外部講師を招いた形態別研修や夏季の職員研修を計画的に実施し、職員の専門性の向上に努めました。</p> <p>2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか。 ハローワークや福祉施設の方を招いた講話を行うなど、外部機関とも積極的に連携する取組を進めました。小・中・高それぞれの部で、年代に応じたキャリア教育の視点を重視した学習活動を進めていきます。</p> <p>3 安全・安心な学校づくりができたか。 基本的な感染症対策の継続、WBGT計の積極的な活用、事前管制シュミレーション訓練などにより、児童生徒が安全に学習に取り組める環境を整えました。避難訓練、シェイクアウト訓練、引き渡し訓練などに加え、新たな取組として防災学習や伝言ダイヤル活用訓練も実施し、児童生徒、職員、保護者の防災意識を高めました。</p> <p>4 関係機関者や保護者等との連携による教育活動が推進できたか。 医療関係者や居住地校などの関係機関、保護者と連携して、児童生徒の実態や病状に応じた指導方法を検討し、実践しました。保護者や医療関係者との情報交換を丁寧に行い、指導に生かしました。</p> <p>5 センター的機能の充実ができたか。 知多地域の小中学校教員を対象にした公開研修や、県内の院内学級関係者との連携会議を開催し、病弱教育に関する情報発信に努めました。地域の小中学校への巡回相談や各種委員会への参加により、関係機関との連携と情報交換を行うことができました。</p> <p>6 仕事の効率化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか。 職場環境の整理・整頓を実践し、仕事の効率化につなげるとともに、個人情報への適切な取扱いについての意識も高めました。教員用パソコンの更改により本校舎と施設内教育が同一のクラウド上でデータを共有できるようになりました。こうしたICT環境も活用して業務の効率化を進め、引き続き、働きやすい環境を整えることに努めます。</p>		